

教育実習体験記

今年も6月になって多くの4年生が教育実習に入りました。千葉県や東京都のみならず自身の地元に戻って中学校または高等学校で実習を行っています。今回は、教育実習を終えた3人の学生（日本語学科の網中萌恵さん、英米語学科の福岡拓馬さんと桑原百蘭さん）から実習での体験談を聞きました。

網中さん：母校の中学校で3週間教育実習を行いました。はじめは不安でしたが、素直で穏やかな生徒たちと真摯に指導して下さる先生方に囲まれて、充実した実習となりました。精練授業では、大きな課題として生徒の発言へのレシーブ力、発問の精度が挙げられました。生徒との交流の中で、中学校の教員になりたいという気持ちが一層大きくなったため、指導力、人間性を磨き、生徒と一緒に成長していける教員になりたいです。

福岡さん：最初の1週間は場所や生徒に慣れず、教育実習を辞めたいと思う日が続きました。しかし、2週目からは緊張がほぼなくなり、生徒とコミュニケーションをとることができました。それだけでなく授業計画も指導教員のアドバイスをもらって進められるようになり、ありがたみを感じることもばかりでした。精練授業では緊張感溢れる中でしたが、生徒の応援や指導教員の支えで無事終えることができました。上手くいくことは多くはありませんでしたが、やり切ることができてよかったです。

桑原さん：3週間母校で実習をさせていただきました。実習を通して、授業の軸を重要視すること、日常から生徒との信頼向上を図ること、自己研鑽を欠かさないことの3点を学びました。実習中は教材研究や授業準備に追われていましたが、生徒と話していると自然に疲れがなくなり、私は心から「この仕事に就きたい」と再認識することができました。この経験を糧に教師となり、私の夢である輝いた大人の姿を子供たちに見せたいと思います。